

令和2年度・5月号



新宿区立早稲田小学校

一日進日新

学校だより

令和2年5月14日

# わ せ だ



**絶対に負けない、あきらめない!** ~常に早稲田小の子どもたちのことを考えて~

## 1 学校は、子どもたちのためにあります

今年度は、4月6日に入学式を無事行うことができましたが、次の日の始業式はできませんでした。学年ごとに分散登校し、45分間という限られた時間ではありましたが、子どもたちと教職員が向き合うことができました。今思うと、とても貴重な時間でした。

学校は、子どもたちのためにあります! 私たちは、5月7日から31日までの休校延長が決まっても、私たちは自分たちのできることを考え続けています。すべての子どもが明るく楽しく元気になれるように全力を尽くしていきます。

## 2 今年度も「対話」と「つながり」を大切にします

昨年度の3月から実施している毎週のご家庭への連絡は、今後とも継続させていただきます。

たとえ、物理的な距離はあっても「対話」と「つながり」は大切にしたい。短い時間でも、子どもたちと会話し、「今」を理解して寄り添っていきます。

## 3 できないと憂うことなく、できることを前向きに考えていきます

新型コロナウイルスの地球規模の感染拡大を去年の今頃、予見した人はほとんどいかなかったと思います。学校教育もこれほど長期に渡って休校せざるを得ない状況にあるのは、戦後始まって以来のことです。このような学校教育の最大の危機をチャンスに変えられるかどうかは、私たちの意識改革と行動変容にかかっていると思います。

学校が再開できても、3つの「密」を防ぐためには、様々な教育活動を制限しなければなりません。

でも私は、あれもできない、これもできないと憂うことをすぐにやめました。こうすればできる、こうやって工夫すれば大丈夫だと考えていく。そのためにどうしていくかを全教職員一丸となって考え行動していくことが、制限された教育活動を豊かにできる突破口であると考えているからです。

8日に一斉メール、学校ホームページ等でお知らせした担任からの連絡の継続、下駄箱の私書箱化、授業動画配信、スクールカウンセラーによる「心のホットライン」の開設もその答えの一つ一つです。

早稲田小学校の教職員は、自宅勤務をしている時も、子どもたちのことを常に念頭においています。教材研究ノートに授業の流れを丁寧にイメージしてまとめたり、新型コロナウイルス対応の資料を作成したり、忘れてきた子どものためにとマスクやランチョンマットを手作りしたり、幼い子を寝かしつけた後に授業動画を創ったり……。本校の教職員の豊かな発想とチャレンジ精神とあくなき探求心にふれ、胸が熱くなる毎日です。